

連携研究「自然と文化」佐渡研究会

島の豊かさ

佐渡から考える
新たな社会

参加無料

2013年
10月13日(日)

13:00~17:00

金井能楽堂 (佐渡市中興甲371番地)

主催：人間文化研究機構 総合地球環境学研究所 (京都市)

後援：佐渡市

Program

●司会 山 泰幸 関西学院大学教授 ●コーディネーター 阿部健一 総合地球環境学研究所教授

●挨拶・趣旨説明 佐藤洋一郎 総合地球環境学研究所副所長

第1部 研究者による報告 13:15~14:15

佐渡の〈豊かさ〉とは何か：民俗学の観点から 門田岳久 立教大学助教

佐渡と文化・社会運動：
観光と芸能の境界線から地域振興を考える 小西公大 東京外国語大学現代インド研究センター特定研究員
杉本 浄 東海大学専任講師

第2部 佐渡市からの報告 14:15~15:15

世界農業遺産 (GIAHS) を活用した島づくり 渡辺竜五 佐渡市農林水産課課長

能登との交流から佐渡の GIAHS を知ろう 新潟県立佐渡総合高等学校の皆さん

第3部 パネルディスカッション 15:25~17:00

渡辺竜五

門田岳久

木部暢子

●話題提供 1

小松和彦 国際日本文化研究センター所長

●話題提供 2

高野宏一郎 前佐渡市長

国立国語研究所副所長

島の豊かさ：佐渡から考える新たな社会

概要

佐渡の〈豊かさ〉とは何か：民俗学の観点から

門田岳久 立教大学助教

島は常に孤独と豊かさという両義的な意味付けをなされてきた。特に佐渡は民俗学において、文化豊かな島だとみられてきた。しかしその豊かさとは誰にとってのものなのだろうか。実際佐渡の人たちは、自分たちの島の豊かさをどのように捉えてきたのだろうか。本発表では佐渡で行ってきたフィールドワークをもとに、〈豊かさ〉をめぐる佐渡の内と外とのある種の温度差を論じるとともに、それがこんにちの街づくりや文化運動にどうつながっているのかを考えたい。

佐渡と文化・社会運動：観光と芸能の境界線から地域振興を考える

小西公大 東京外国語大学現代インド研究センター特定研究員 杉本 浄 東海大学専任講師

島の〈豊かさ〉をめぐる、人々はどのような実践を行ってきたのか。観光開発は、島を豊かにしたのだろうか。本発表では、70年代以降の佐渡の疲弊する現状（人口減、過疎化、経済的後進性）を具体的に明示しつつ、そのような状況を打破すべく運動を起こした人々（主に鬼太鼓座の創設に関わった本間雅彦、宮本常一、田耕の三名）の実践的活動に着目しながら、外部／内部の人間の関係性とその〈境界〉が生み出す可能性を考える。

講師プロフィール

佐藤洋一郎 ●趣旨説明

総合地球環境学研究所・副所長

作物としてのイネの起源に端を発し、最近では穀類の起源と伝播、穀類と動物性タンパク源の生産と消費の同所性などを研究。著書に『森と田んぼの危機』、『コシヒカリより美味しい米』、『食を考える』等多数。

門田岳久 ●報告

立教大学・助教

専門は文化人類学・民俗学。佐渡や沖縄・四国において宗教とツーリズムの関係について研究。近年は杉本・小西とともに佐渡で実践型の研究「廃校プロジェクト」を実施。著書に『巡礼ツーリズムの民族誌』等。

小西公大 ●報告

東京外国語大学
現代インド研究センター・特定研究員

専門は社会人類学。インドの周辺部における社会空間とコミュニティを対象とし、モダンシティとの連関を研究してきた。著書は『Jaisalmer: Life and Culture of the Indian Desert』(共著)等。

杉本 浄 ●報告

東海大学・専任講師

専門はインド近現代史。インド東部のベンガル湾に面するオディシャ州を中心に言語運動や社会運動について研究。近年では19世紀中盤からの鉱山開発史の研究に着手。佐渡生まれ。著書に『オリヤ・ナショナリズムの形成と変容』等。

小松和彦 ●話題提供

国際日本文化研究センター・所長

妖怪論、シャーマニズム、民間信仰などを研究する文化人類学者、民俗学者。主な著書に『福の神と貧乏神』など。NHK総合テレビ『爆笑問題のニッポンの教養』等に出演するなど活躍中。

高野宏一郎 ●話題提供

前佐渡市長

民間会社等を経て、平成12年旧真野町長就任。佐渡市の初代市長として、平成16年4月から平成24年4月の任期満了まで、2期8年間を務める。現在、GIAHS佐渡市アドバイザー、全国離島振興協議会顧問、(財)日本離島センター顧問。

木部暢子 ●パネリスト

国立国語研究所・副所長

専門分野は日本語方言学、アクセント論。主な著書に『西南部九州二型アクセントの研究』、『鹿児島県のことば』(共著)、『方言の形成』(共著)等。

山 泰幸 ●司会

関西学院大学・教授

地域の自然や文化を活かしたまちづくりに関する調査・研究に従事。2010年4月より、同大学観光学・まちづくり研究センター長。著書に『追憶する社会』、共著に『文化遺産と現代』等。

阿部健一 ●コーディネーター

総合地球環境学研究所・教授

東南アジア熱帯林で生態学調査を続けてきた。その過程で環境問題の文化的・社会的側面に興味を持つ。専門は環境人類学・相関地域研究。編著に『生物多様性 子ども達にどうつたえるか』等。

>>連携研究「人と自然」は、人間文化研究機構の連携研究として2010年6月よりはじまりました。人と自然の多様なかわりを、考古、歴史、民族(俗)、環境、思想などの多様な観点から解明することを目指しています。

連携研究「自然と文化」事務局（総合地球環境学研究所内）

<お問い合わせ>

E-mail: People_Nature@chikyu.ac.jp Tel: 075-707-2272

〒603-8047 京都市北区上賀茂本山 457-4